

反処分春闘勝利 千葉市内でデモで席卷

日刊 動労千葉

81.4.22

No. 722

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公電)留三三二七三〇七

四月一七日、青年部は「報復処分粉碎、八一年春闘勝利、四・一七津田沼襲撃二周年弾劾総決起集会」を開催した。会場の千葉運転区講習室には一六〇名におよぶ青年部員が結集し、不当処分への怒りも新たに終始戦闘的のうちぬかれた。青年部員は若い力をほとばしらせ、三月闘争の切り拓いた全成果をうち固め、当局・権力・動労「本部」反動分子に対する怒りをバネに新たな進撃を開始した。

反処分・「本部」スト破りに怒り湧きたつ

会場の千葉運転区講習室は、定刻にはピシッと埋め尽され、尚廊下いっぱいにあふれだす大結集だ。動労千葉破壊のために強行された四名不当解雇・二二五名の大量報復処分攻撃が逆に怒りとなり団結力の強さとなって大きな前進がcaちとられているのである。

一三時すぎ集会は、笠井・新藤常任の司会によって開始された。繁沢書記長による主催者を代表してのあいさつのもと、来賓として、動労千葉本部関川委員長、千葉運転区支部永田支部長、三里塚芝山連合空港反対同盟・島村良介氏、部落解放同盟千葉連谷川副委員長、藤田書記次長、「動労千葉支援一億円基金」呼びかけ人を代表して、前田俊彦氏よりそれぞれ連帯と激励のあいさつを受けた。

続いて被処分者を代表して山口交渉部長がたち、



報復不当処分粉碎！ 首切り反動局長 秋山追放！
怒りのシュプレヒコールが局を包囲する。シャッターを半分引き降し、ドアに内かきをかけてとじこもる当局を糾弾。(4/17、千鉄局前)

「今回の処分は、全く政治的な超反動処分である。私は、マル生攻撃が自分自身の大きな転換となつたが、今回の不当解雇に対して決意を新たにしてみなさんと、動労千葉の前進と発展のために闘いぬきたい。」と確信に満ちた闘いの決意を表明、結集したすべての青年部員が会場わればかりの拍手でこの決意に応えた。

つづいて基調報告は、冒頭四・一七津田沼襲撃二周年にあたって、反動・ファシストである「本部」反動分子への敵愾心を忘れてはならないことさらに春闘そのものを解体せんとする政府・当局・日経連の攻撃を許さず、「反処分・生活防衛・反合・労農連帯春闘」として闘おうと提起された。そして実践的課題として「『動労千葉支援一億円基金運動』を全力で取り組もう。この運動は不当処分攻撃を財政的にはね返していくとともに、全国に動労千葉の闘いを拡大し、第二第三の動労千葉を創り出していく闘いである。」と提起された。

これからが真剣勝負と 全支部青年部員が決意

基調報告の後、各支部青年部代表が勢ぞろいし、「いよいよこれからが真剣勝負、全力で闘いぬこう」と熱烈な決意表明。満場の拍手のうち全員が立ちあがって、青年部はじまって以来の独自千葉市内デモ↓千葉鉄道管理局抗議闘争へ総決起していった。



3月決戦ストをけん引した力で再び春闘、反処分の4月闘争をけん引する青年部